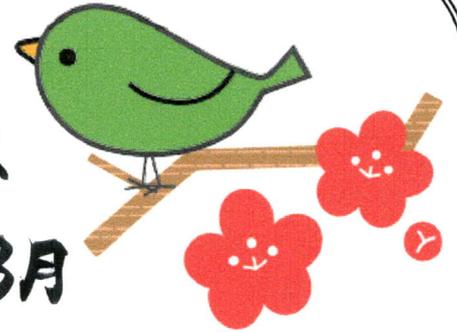




徳成寺 寺とかわら版 第183号 2022年3月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

北京オリンピック、男子フィギュアスケートで、羽生選手が4回転半ジャンプに挑みました。それに対してサッカー元日本代表の三浦知良選手は「やっておけばよかったと後々思う人生になるほうが、失敗よりもつらいんじゃないのかな」と自身の15歳で単身ブラジルに渡っての挑戦を重ねて語っています。私はこれを伺って、

挑戦できるのは、自分を信じている証拠だと思いました。挑戦の結果が成功であれ失敗であれ、自分を信じて自分にウソをつかなかった。それだけで十分なのではないでしょうか。「あの時、なんで自分を過小評価して、信じてあげられなかったんだろう」という悔いを残さない人生を歩んで参りたいと、二人のアスリートから励まされた気がしました。

-発行責任者-
住職
大山健児
坊主
大山ひとみ



大山超世の耳を澄ませば



お世話になっています、副住職です。冬季五輪終了から瞬く間に世界情勢が悪化しました。そんな中、2/21に開かれた国連安保理会合でのケニア国連大使キマニ氏の演説が高く評価されているそうです。「同胞と一緒にになりたいと思わない人はいないが、そのような願望を力づくで追い求めることを拒否する」（一部抜粋）という発言でした。民族統一を名目に国際社会に対するイニシアチブをもう一度取り戻す為に武力を行使するロシアと、かつての列強に引かれた国境線を肅々と受け入れ、ルールに従い明日に向かおうとするケニアとの対照的な姿が印象に残ります。

この度のウクライナ侵攻は民主主義に対する冒涇であり許されない行為です。残念ながら、起こってしまったこの度の戦争に対して私達が今すぐできるアクションはとても少ないです。しかし、このような事を二度と起こさせないためにも、各国のトップがこれから発信する言葉や出来事から私達が人間としてどうあるべきかを学び取る事を諦めてはいけなと感じました。写真は演説を行ったケニア国連大使のキマニ氏です。一刻も早い事態の収束を願います。